



持続的な、  
社会と世界を。

# 2025年度管区OPENゼミ

2026年3月11日（水）～3月13日（金）

---

農林水産省  
北海道農政事務所

## お伝えしたいポイント①

- 北海道農政事務所は**農林水産省の地方機関**であり、**北海道を管轄**しています。
- 食料の安定供給、農林水産業・食品産業の発展、食の安全確保、農林水産物・食品の輸出促進など幅広い政策を担っており、「**食**」と「**環境**」を核として、**幅広いフィールドで活躍**できます。
- 農業の専門知識は不要**です。  
**行政区分からの採用者の多くが文系学部卒**で農業の知識・経験なしで入省しています。  
もちろん、農学部等の**理系学部卒も大歓迎**です。

## お伝えしたいポイント②

- **転勤範囲は基本的に北海道内**（札幌、函館、旭川、釧路、帯広、北見）です。なお、**3～4年目に本省（霞が関）勤務**があり、**国家の中枢での仕事も経験**できます。
- **おおむね2年程度で様々なポストを経験**していただきながら、**将来的に、自分にあつた分野のスペシャリスト**になっていただきます。
- **残業は比較的少なく、休暇も取りやすい職場**のため、**プライベートの時間が確保**できます。
- **育児等との両立**が必要となった際には、**時差出勤、短時間勤務、育児休業**（北海道農政事務所では男女問わず100%取得）が可能であり、**職員が働きやすい職場**を目指しています。



# CONTENTS

本日お話しすること

01

農林水産省とは

02

農林水産省のミッション

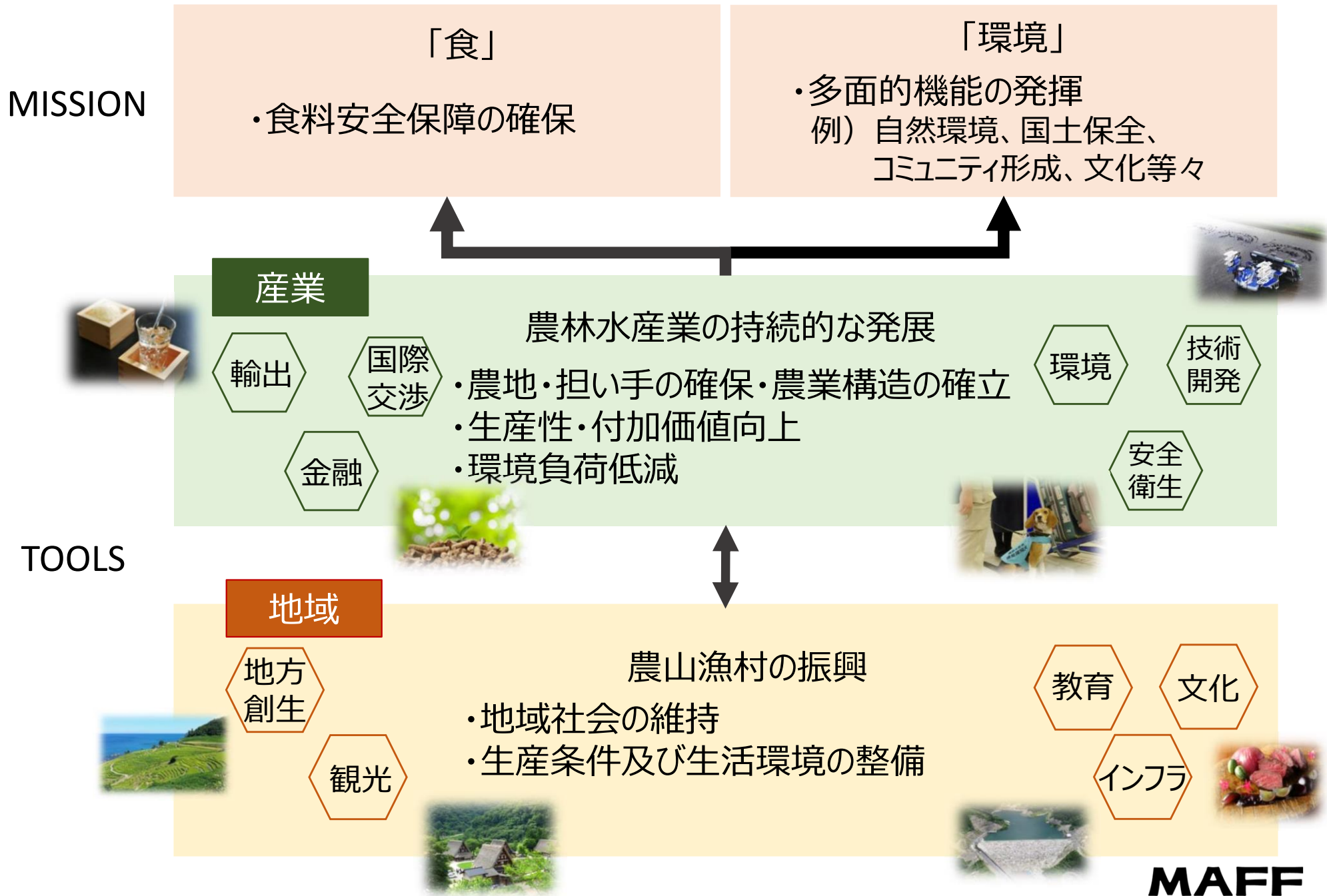
03

北海道農政事務所の職場環境

- 農林水産省ビジョン・ステートメント

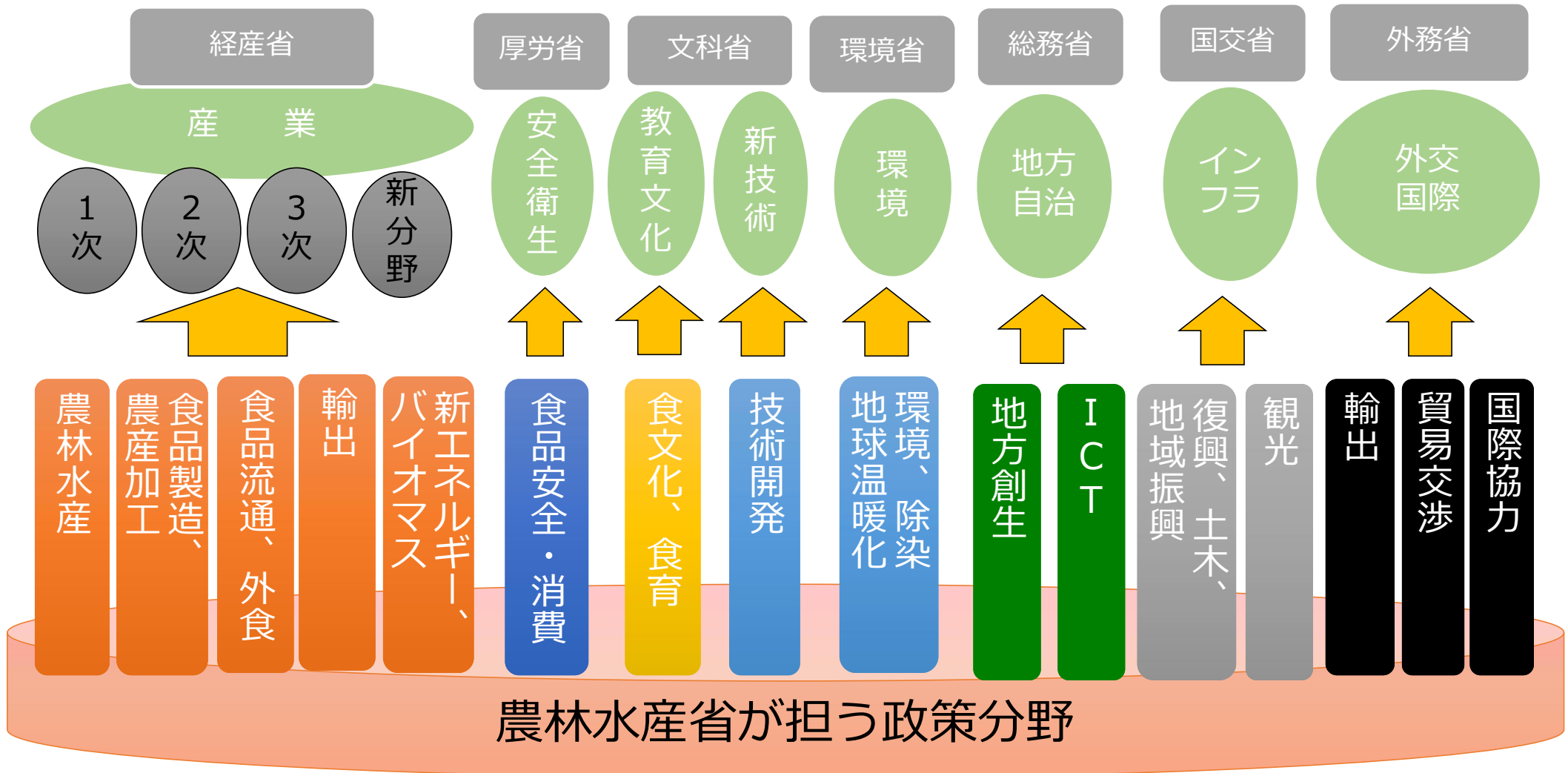
わたしたち農林水産省は、  
いのち  
生命を支える「食」と安心して暮らせる「環境」を  
未来の子どもたちに継承していくことを使命として、  
常に国民の期待を正面から受けとめ  
時代の変化を見通して政策を提案し、  
その実現に向けて全力で行動します。

# 「食」と「環境」を未来に継承するために



# 農林水産省が担う政策分野

▼農林水産省は、「食」を中心に、産業政策、地域振興、インフラ、文化、外交等の幅広い政策分野を総合的に担うため、「**総合政策官庁**」と呼ばれています。



「食」や「農」を取り巻く様々な課題をどうすれば解消できるのか？  
農業の成長産業化のため、どのような仕掛けが必要か？

## 政策の企画・立案 (主に本省)

- ・課題の設定
- ・基本的な方針の作成

- ・政策手法の検討  
(法令、事業等)

- ・政府内、外部との調整
- ・法令作成、予算の確保

## 政策の実行 (主に地方農政局)

- ・政策の現場への周知
- ・法令、事業等の執行  
(交付、検査等)

- ・政策情報の収集
- ・現場の問題点の把握

# CONTENTS

本日お話しすること

01

農林水産省とは

02

農林水産省のミッション

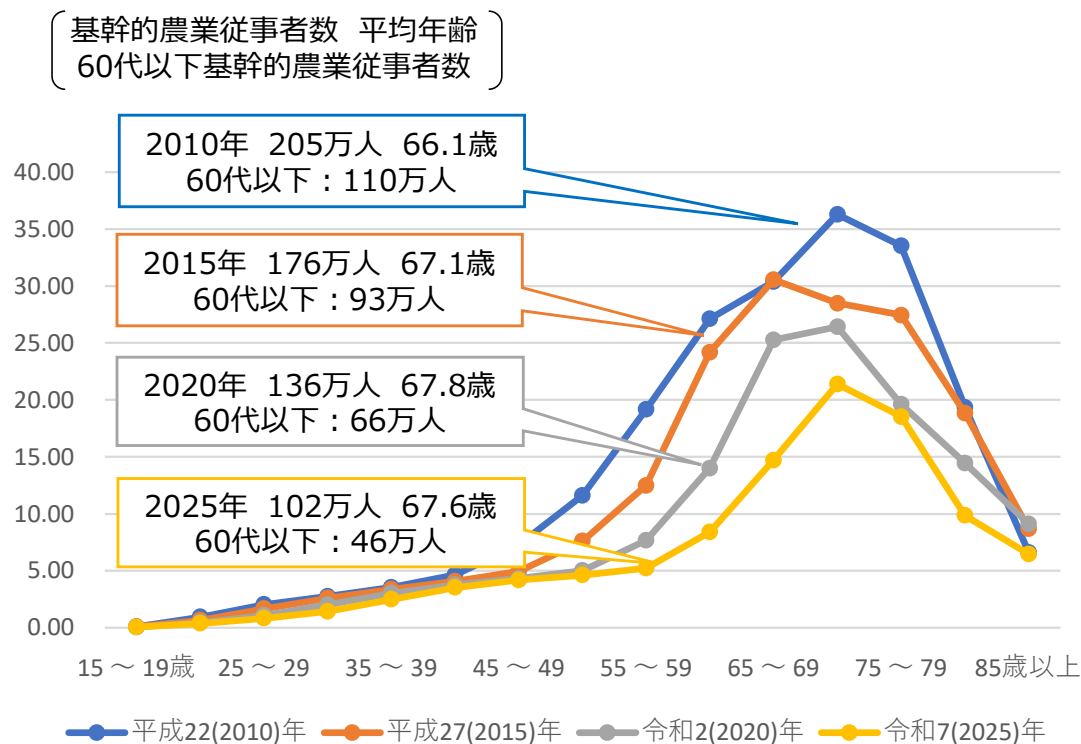
03

北海道農政事務所の職場環境

# 農林水産業の課題：高齢化

平均年齢67.6歳。高齢化が主要国と比較しても突出。  
持続的に産業として発展させるためには、若年層の参入が必要。

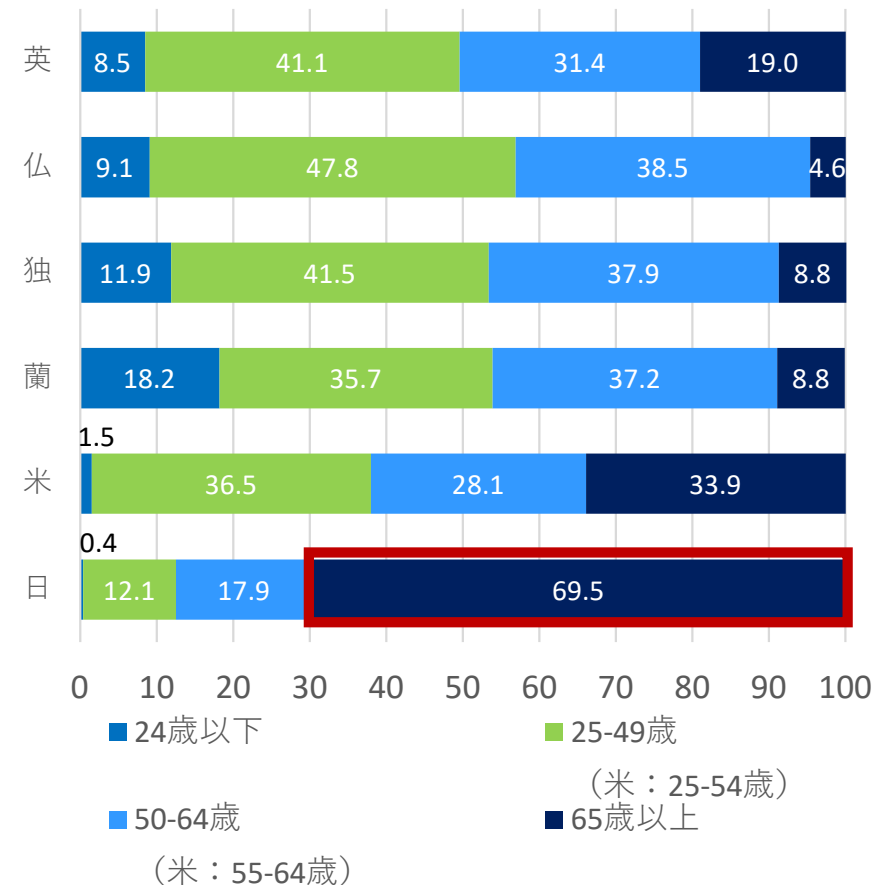
## ○基幹的農業従事者の年齢構成



資料：農林水産省「農林業センサス」(組替集計)

基幹的農業従事者とは、農業就業人口(自営農業に主として従事した世帯員)のうち、  
ふだんの仕事として主に自営農業に従事している者

## ○各国の農業従事者の年齢構成



### 【資料】

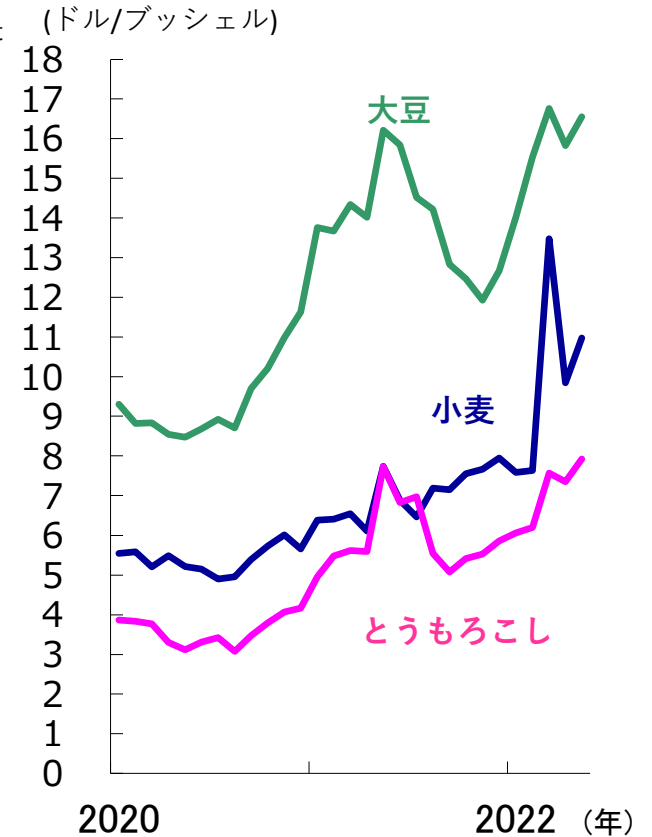
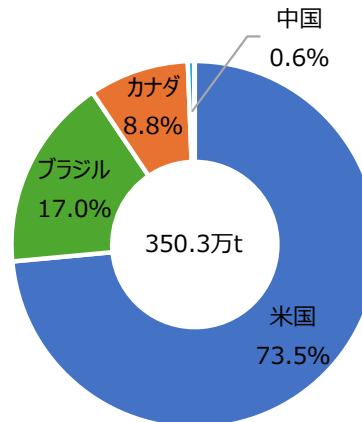
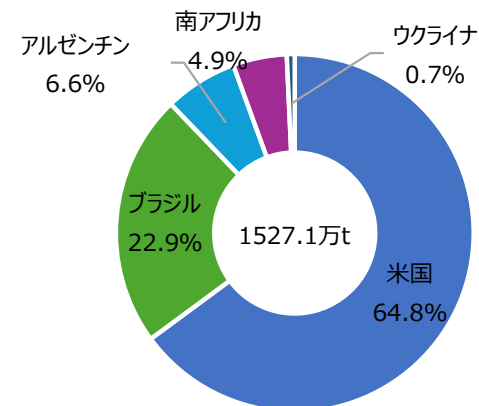
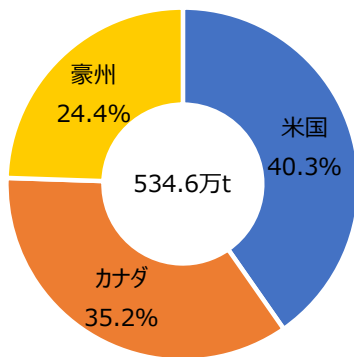
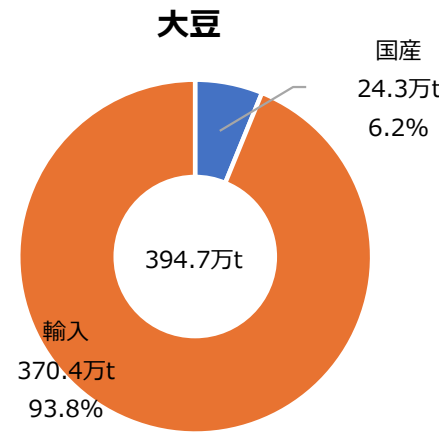
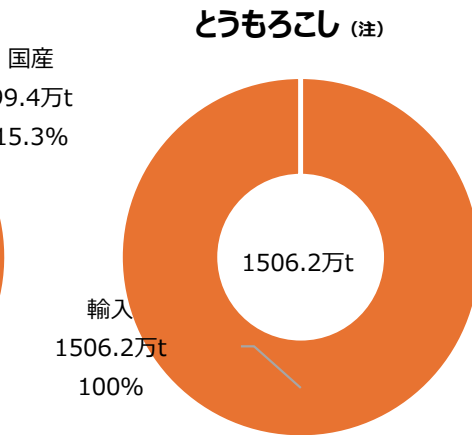
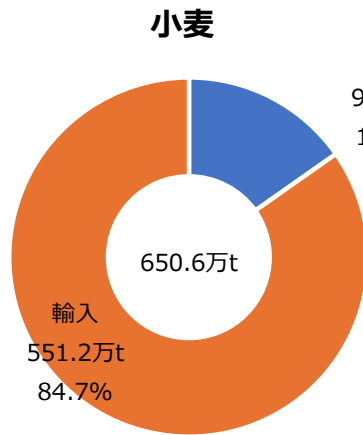
英は、EUROSTAT(2019) : 農業に従事した世帯員  
 仏独蘭は、EUROSTAT(2020) : 農業に従事した世帯員  
 米は、米国農務省「2017年農業センサス」  
 : 農業に従事した世帯員  
 日は、農林水産省「農林業センサス」(令和7年)  
 : 基幹的農業従事者

# 日本の食の課題：輸入だけで大丈夫？

米以外の穀物は大きく輸入に頼っている。一方で、気候変動や新興国の輸入需要の増加、ウクライナ情勢により、相場は高騰

国内消費 (2022年度)

輸入内訳 (2022年)



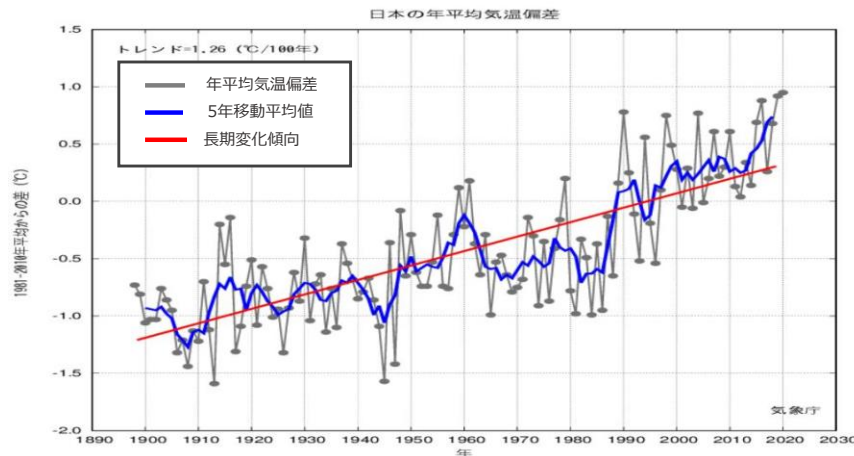
(注) 穀物としてのとうもろこしを指し、野菜に分類されるスイートコーン（国内ではほぼ完全に自給）は含まない。

出典：農林水産省「食料需給表」、FAO「FAOSTAT」

# 日本の食の課題：地球環境の変化

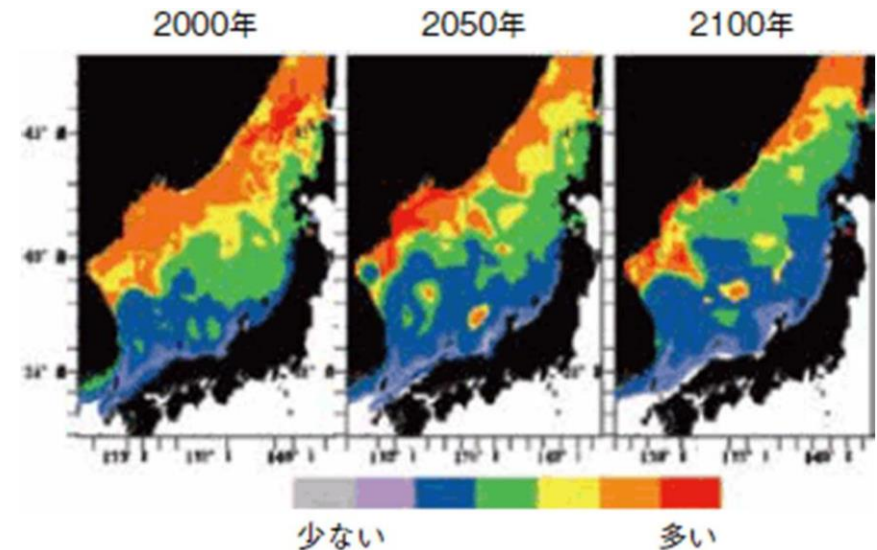
- 日本の年平均気温は、**100年あたり1.44℃**の割合で上昇。  
2024年の日本の年平均気温は、統計を開始した1898年以降**最も高い値**。
- 農林水産業は気候変動の影響を受けやすく高温による**品質低下**などが発生。

## ■ 日本の年平均気温偏差の経年変化



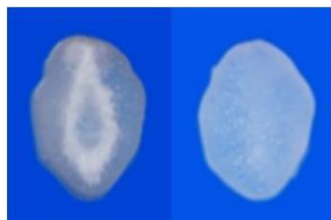
年平均気温は長期的に上昇しており、特に1990年以降、高温となる年が頻出

## ■ 温暖化による水温予測結果を用いたスルメイカの分布密度予測図



## ■ 農業分野への気候変動の影響

- ・ 水稲：高温による品質の低下
- ・ リンゴ：成熟期の着色不良・着色遅延



白未熟粒(左)と正常粒(右)の断面



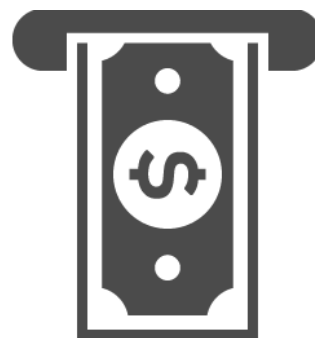
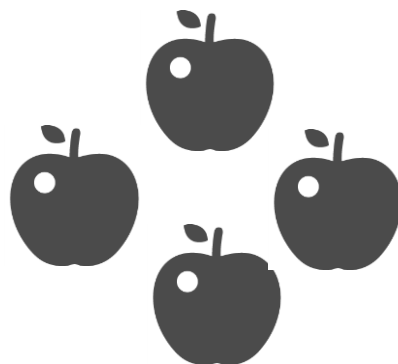
# 農林水産業の持続的な発展

「食」と「環境」を未来に繋ぐため

- ・ **食料安定供給の機能の向上**
  - ・ **農山漁村（ひいては日本全体）の活力維持・向上**
- を実現できるよう、**農林水産業の持続的な発展**が不可欠。

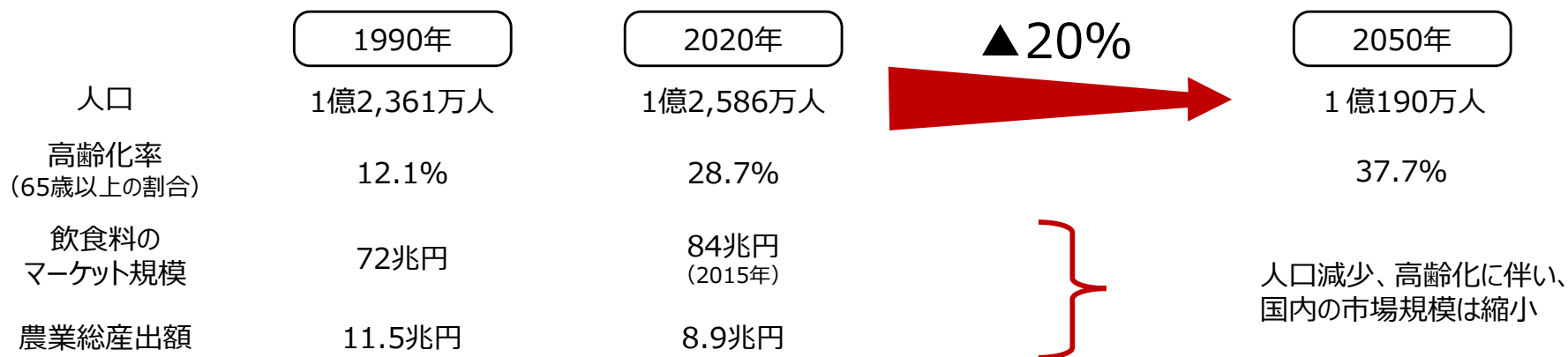
単純に言うと…

$$P \text{ (価格)} \times Q \text{ (量)} - C \text{ (コスト)} = R \text{ (利益)}$$



# (前提として) 国内市場の変化

- 国内の市場規模は、人口減少や高齢化に伴い、縮小。
- 急速な需要の減少が、日本の農林水産業に大きな影響を与えることは不可避。



資料：国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（平成29年推計）」  
農林水産省「農林漁業及び関連産業を中心とした産業連関表（飲食費のフローを含む。）」、「生産農業所得統計」

## ○一人当たり食料支出額（単位：%）

	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年
合計	100	103	105	108	112	116
生鮮食品	100	99	95	93	91	89
加工食品	100	105	110	117	124	132
外食	100	104	106	108	110	113

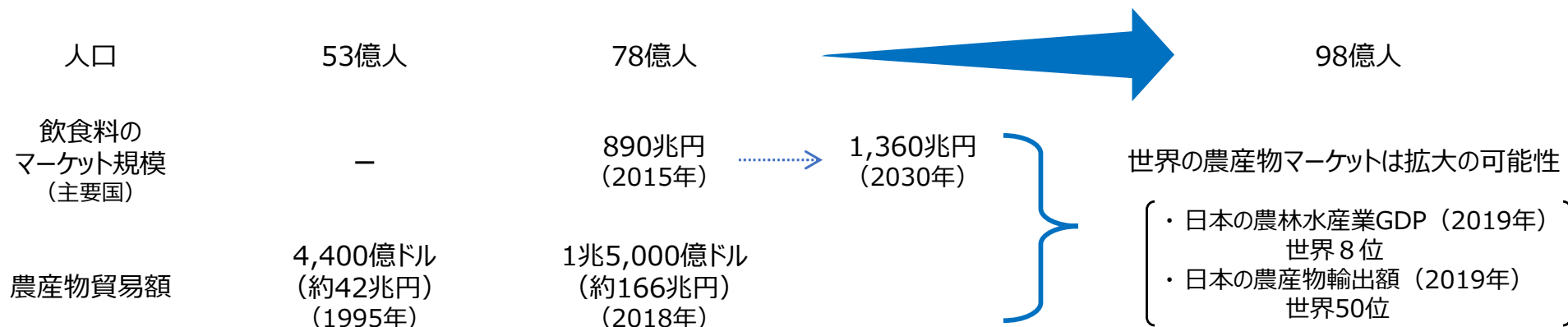
## ○食料支出総額（単位：%）

	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年
合計	100	101	100	100	99	98
生鮮食品	100	97	91	85	80	75
加工食品	100	103	105	107	109	111
外食	100	102	100	99	97	95

資料：農林水産政策研究所「我が国の食料消費の将来推計」（2019年版）

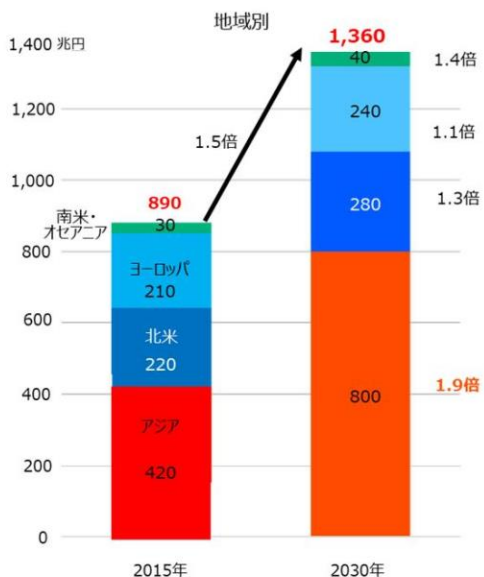
# (前提として) 海外のマーケットを取り込んでいくことが重要。

- 世界の農産物マーケットは、人口の増加に伴い、拡大する可能性。
- 農林水産業の生産基盤を維持・強化し、農林水産物・食品の輸出促進により世界の食市場を獲得していくことが重要。



資料：国際連合「世界人口予測・2017年改訂版」、農林水産政策研究所「世界の飲食料市場規模の推計」、FAO「世界農産物市場白書 (SOCO) : 2020年報告」

## ○世界の飲食料市場規模



※グラフの数値は四捨五入して表示してある。

## ○国別・部門別の飲食料市場規模

単位：兆円

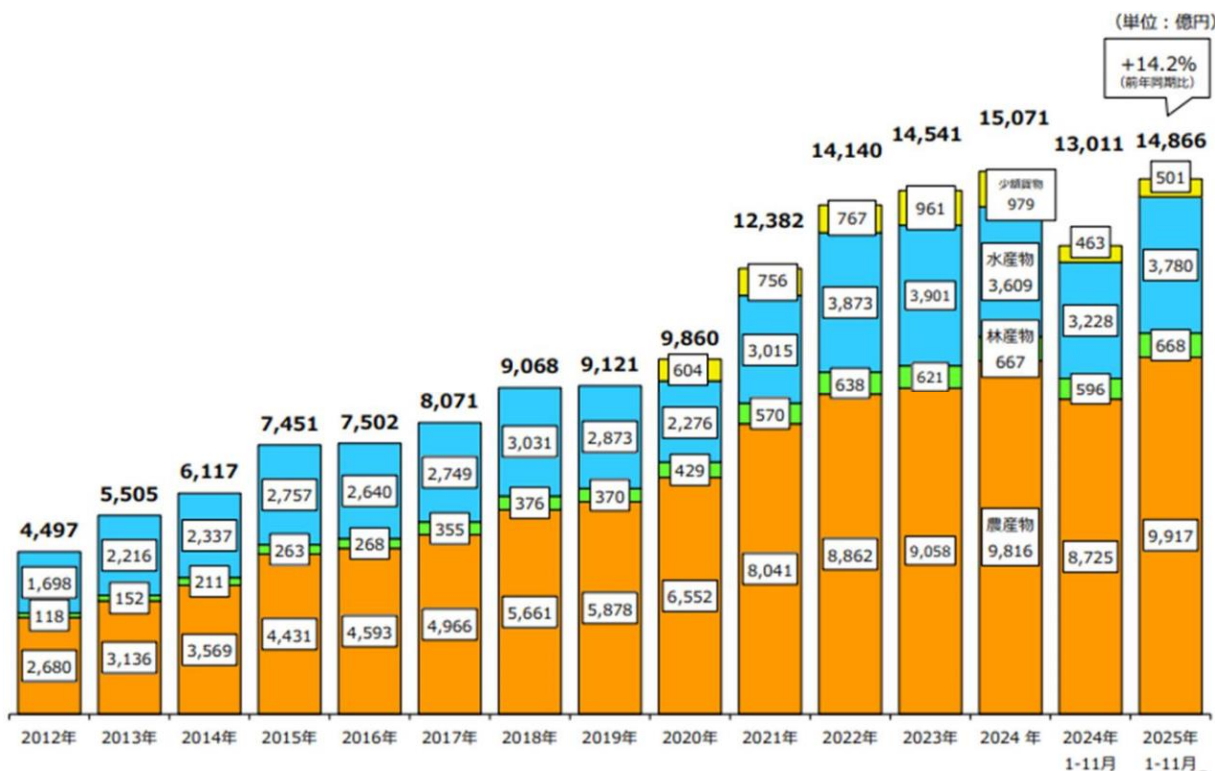
	2015年				2030年			
	生鮮品	加工品	外食	合計	生鮮品	加工品	外食	合計
アジア	221	146	57	424	409	292	93	794
北米	47	93	83	223	55	105	125	284
ヨーロッパ	53	97	60	211	62	105	75	242
南米・オセアニア	12	12	9	32	15	16	14	45
<b>34か国・地域計</b>	<b>333</b>	<b>348</b>	<b>210</b>	<b>890</b>	<b>541</b>	<b>518</b>	<b>306</b>	<b>1,364</b>

資料：農林水産政策研究所「世界の飲食料市場規模の推計」

# 農林水産業の持続的な発展：輸出促進

近年急速に増加。2021年には1兆円、2024年には1.5兆円を突破！  
2030年輸出額 5兆円の目標達成を目指す。

○農林水産物・食品の輸出額



○諸外国の農産物・食品の輸出割合

(億ドル)

国名	生産額 (農産物・ 食品製造業)	輸出額 (農産物・ 加工食品)	輸出割合
アメリカ	12,335	1,442	12%
フランス	2,591	730	28%
イタリア	2,302	485	21%
イギリス	1,548	286	18%
オランダ	1,066	1,018	95%
日本	4,725	84	2%

注：日本以外の諸外国の林業・漁業生産額については、比較可能な統計がないことから、生産額、輸出額とも含めていない。日本のみ農林水産物として算出。

資料：FAOSTAT, 三井物産戦略研究所, Global Trade Atlas, 生産農業所得統計, 工業統計, 林業産出額, 漁業産出額, 農業・食料関連産業の経済計算

# 農林水産業の持続的な発展：テクノロジー活用

## 「農業」 × 「先端技術」 = 「スマート農業」

「スマート農業」とは、「ロボット、AI、IoTなど先端技術を活用する農業」のこと

### スマート農業の効果

- ① **作業の自動化**  
ロボットトラクター、スマホで操作する水田の水管理システムなどの活用により、作業を自動化し人手不足の解消が可能に
- ② **情報共有の簡易化**  
位置情報と連動した経営管理アプリの活用により、作業の記録をデジタル化・自動化し、熟練者でなくても生産活動の主体になることが可能に
- ③ **データの活用**  
ドローン・衛星によるセンシングデータや気象データのAI解析により、農作物の生育や病虫害を予測し、高度な農業経営が可能に



### データ連携基盤

#### 農業データ連携基盤

スマート農業に必要なデータを連携・共有・提供。



WAGRI

連携



#### スマートフードチェーンプラットフォーム

生産から加工・流通・販売・消費に至るデータを連携。



ukabis

# 農林水産業の持続的な発展：みどりの食料システム戦略

## ① 食料システムの関係者の理解の増進



➢ 広報活動の充実

## ② 技術の研究開発の促進



➢ 産学官連携の強化、研究者の養成等

## ③ 技術の普及の促進



➢ 栽培マニュアル等の情報提供や普及事業の展開

## ⑦ 環境負荷の低減に資する農林水産物等の消費の促進



➢ 消費者への適切な情報提供、食育の推進

## ⑧ 評価手法等の開発



➢ 脱炭素化等の定量化・評価手法（見える化）の検討

## ④ 環境負荷の低減に資する生産活動の促進



➢ 地力増進、化学肥料・化学農薬の使用低減、温室効果ガスの削減・吸収 など

## ⑤ 環境負荷の低減に資する原材料の利用の促進



➢ 原材料の生産等の状況に関する情報収集・提供

## ⑥ 環境負荷の低減に資する農林水産物等の流通の合理化の促進



➢ ICT化、モーダルシフト、集出荷拠点の集約化等

# みどりの食料システム戦略（具体的な取組）

～食料・農林水産業の生産力向上と持続性の両立をイノベーションで実現～

## 調達

1. 資材・エネルギー調達における脱輸入・脱炭素化・環境負荷軽減の推進

- (1) 持続可能な資材やエネルギーの調達
- (2) 地域・未利用資源の一層の活用に向けた取組
- (3) 資源のリユース・リサイクルに向けた体制構築・技術開発

～期待される取組・技術～

- 地産地消型エネルギーシステムの構築
- 改質リグニン等を活用した高機能材料の開発
- 食品残渣・汚泥等からの肥料成分の回収・活用
- 新たなタンパク資源（昆虫等）の利活用拡大等

・持続可能な農山漁村の創造  
・サプライチェーン全体を貫く基盤技術の確立と連携（人材育成、未来技術投資）  
・森林・木材のフル活用によるCO2吸収と固定の最大化

2. イノベーション等による持続的生産体制の構築

- (1) 高い生産性と両立する持続的生産体系への転換
- (2) 機械の電化・水素化等、資材のグリーン化
- (3) 地球にやさしいスーパー品種等の開発・普及
- (4) 農地・森林・海洋への炭素の長期・大量貯蔵
- (5) 労働安全性・労働生産性の向上と生産者のすそ野の拡大
- (6) 水産資源の適切な管理

～期待される取組・技術～

- スマート技術によるピンポイント農薬散布、病害虫の総合防除の推進、土壌・生育データに基づく施肥管理
- 農林業機械・漁船の電化等、脱プラ生産資材の開発
- バイオ炭の農地投入技術
- エリートツリー等の開発・普及、人工林資源の循環利用の確立
- 海藻類によるCO2固定化（ブルーカーボン）の推進等

## 生産

- ✓ 雇用の増大
- ✓ 地域所得の向上
- ✓ 豊かな食生活の実現

## 消費

4. 環境にやさしい持続可能な消費の拡大や食育の推進

- (1) 食品ロスの削減など持続可能な消費の拡大
- (2) 消費者と生産者の交流を通じた相互理解の促進
- (3) 栄養バランスに優れた日本型食生活の総合的推進
- (4) 建築の木造化、暮らしの木質化の推進
- (5) 持続可能な水産物の消費拡大

～期待される取組・技術～

- 外見重視の見直し等、持続性を重視した消費の拡大
- 国産品に対する評価向上を通じた輸出拡大
- 健康寿命の延伸に向けた食品開発・食生活の推進

等

3. ムリ・ムダのない持続可能な加工・流通システムの確立

## 加工・流通

- (1) 持続可能な輸入食料・輸入原材料への切替えや環境活動の促進
- (2) データ・AIの活用等による加工・流通の合理化・適正化
- (3) 長期保存、長期輸送に対応した包装資材の開発
- (4) 脱炭素化、健康・環境に配慮した食品産業の競争力強化

～期待される取組・技術～

- 電子タグ（RFID）等の技術を活用した商品・物流情報のデータ連携
- 需給予測システム、マッチングによる食品ロス削減
- 非接触で人手不足にも対応した自動配送陳列

等

# CONTENTS

本日お話しすること

01

農林水産省とは

02

農林水産省のミッション

03

北海道農政事務所の職場環境

# 北海道農政事務所の組織

## 北海道農政事務所

企画調整室

- ・ 各種政策の推進・調整・広報、防災対策の事務等

総務管理官

総務課  
会計課

- ・ 文書管理、個人情報保護、職員の福利厚生、人事等
- ・ 予算の執行、支出の決定、物品の管理、売買等の契約、営繕及び庁舎内の管理

生産経営産業部

生産支援課

業務管理課

持続的食料システム  
戦略推進官

担い手育成課

輸出対策推進官

事業支援課

- ・ 地域農業生産の振興、酪農・畜産の振興、米穀の需給・価格の安定等
- ・ 政府米の管理、農産物検査
- ・ 経営所得安定対策の推進及び交付金の支出・決定
- ・ 農林水産物・食品の輸出対策、再生可能エネルギー、バイオマスその他の資源の有効な利用の確保

消費・安全部

消費生活課

米穀流通・食品表示監視課

農産安全管理課

畜水産安全管理課

- ・ 食の安全に関する情報の受発信
- ・ 米の適正な流通に向けた監視
- ・ 農産物の安全性確保、農薬・肥料の適正使用
- ・ 牛トレーサビリティ制度や畜水産物の安全性などの確保

統計部

調整課

統計企画課

経営・構造統計課

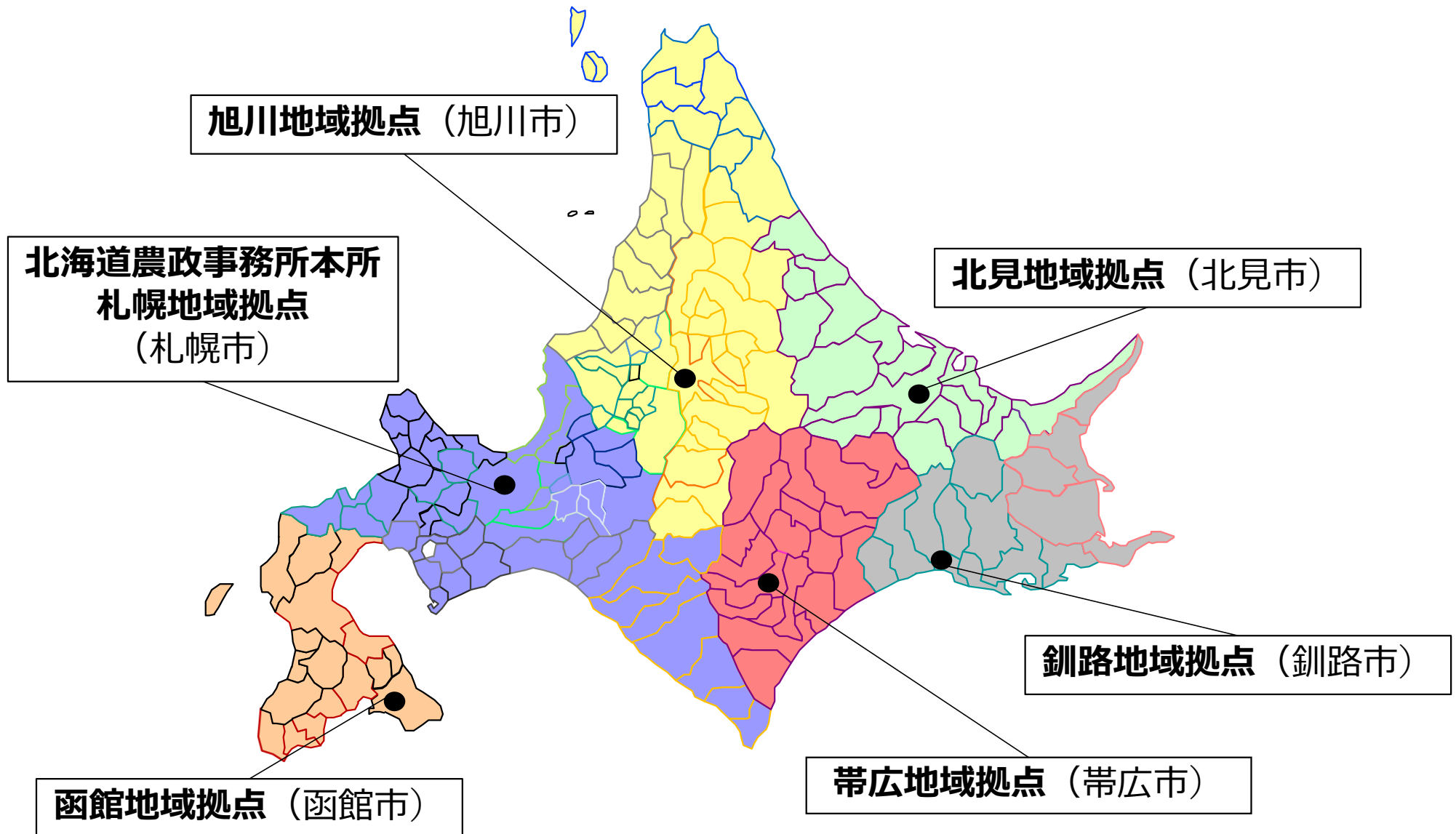
生産流通消費統計課

- ・ 統計の広報及び普及
- ・ 統計データの加工・分析、結果等の提供
- ・ 農林漁業の経営・構造の実態把握
- ・ 農林水産物の生産・流通・加工・消費の実態把握

地域拠点（札幌、函館、旭川、釧路、帯広、北見）

# 北海道農政事務所の組織

北海道農政事務所は、**本所（札幌市）**と**6箇所**の**地域拠点（札幌、函館、旭川、釧路、帯広、北見）**で構成され、全道で**400名以上の職員**が働いています。



庁舎移転を予定しています！！

2026（令和8）年春頃 庁舎移転予定



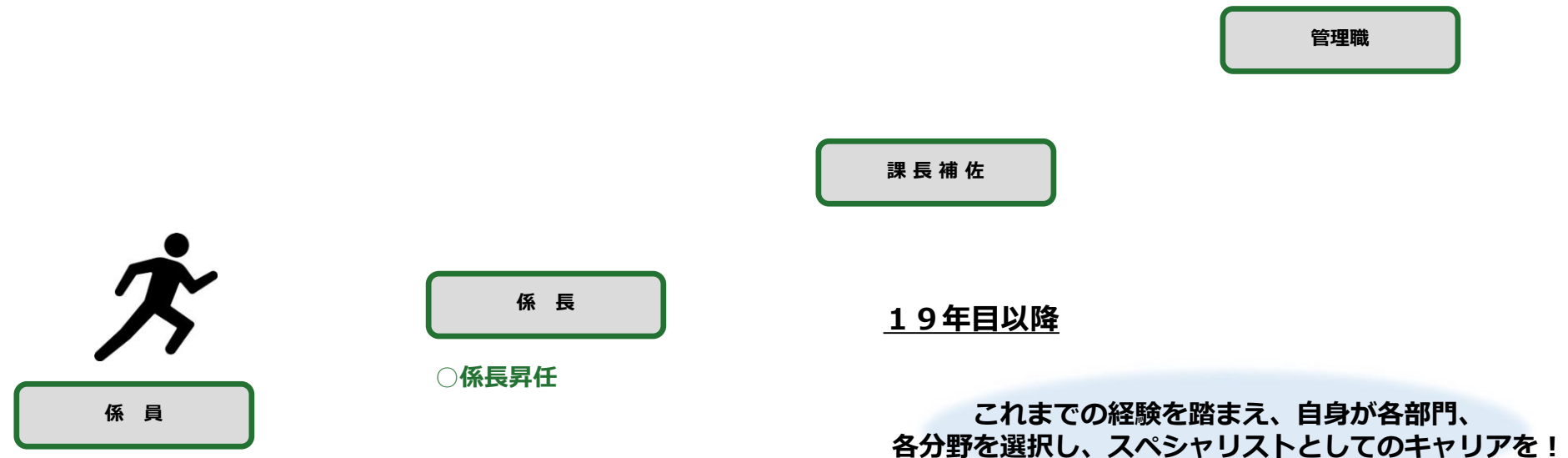
新庁舎完成イメージ

**新住所：北海道札幌市中央区北2条西19丁目8番 札幌第4地方合同庁舎**

現住所：北海道札幌市中央区南22条西6丁目2-22 エムズ南22条ビル

# 一般職（行政・教養）キャリアパス（北海道農政事務所採用）

- 北海道農政事務所管内での異動が基本となります。  
なお、入省3～4年目は農林水産省本省での業務を経験していただきます。
- おおむね2年程度ごとに様々なポストを経験していただきながら、  
将来的に自分にあった分野のスペシャリストになっていただきます。



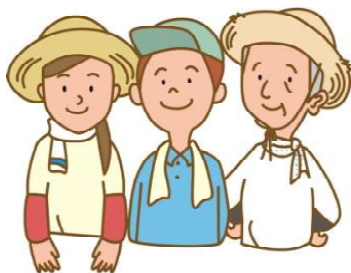
- 政策の企画立案業務、行政の運営管理業務等をそれぞれ経験していきます。



# 採用後の配属例（一般職・行政）

## 政策の執行業務

### ・ 農業経営の改善及び安定に関する業務



生産経営産業部  
担い手育成課  
R6入省 Fさん

- ・ 地域計画
- ・ 農業経営基盤強化準備金
- ・ 関係機関からの問合せ対応

### ・ 食品・循環資源関係業務



生産経営産業部  
事業支援課  
R6入省 Sさん

- ・ 食品ロス、リサイクル関係業務（食品リサイクル定期報告、官庁フードドライブ）
- ・ 経営力向上計画の審査、認定業務

## 行政の運営管理業務

### ・ 企画調整業務

企画調整室  
R6入省 Iさん



- ・ ホームページの編集
- ・ BUZZ MAFF『なまらでっかい道』の撮影・編集
- ・ 夏休み子ども体験デー等イベントの準備

### ・ 会計業務

会計課  
R7入省 Sさん



- ・ 消耗品等の物品購入事務
- ・ 除雪、レンタカー等の役務契約
- ・ 小冊子等の取りまとめ、発注業務

## • BUZZ MAFF

【設立】2020年1月7日（5年）

【チャンネル登録者】18万人以上

農林水産省職員自らが、YouTuberとなり担当業務にとらわれず、スキルや個性を活かして、農林水産省や日本の農林水産業の魅力を発信するプロジェクト。

省内公募で選ばれたチームが日替わりで発信しています。

北海道農政事務所でも若手職員を中心に

【なまらでっかい道】を結成しています。

北海道愛の強い職員が、元気ハツラツに、農業体験や道産食材を使っの料理などを通じて、北海道の農林水産物・農山漁村の魅力を発信します！



# 若手がどんどん行動しています

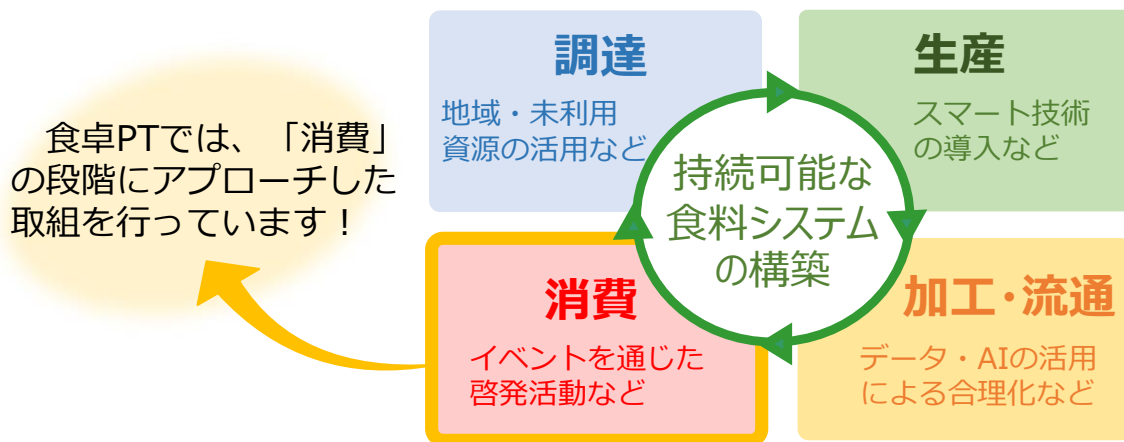
## ・みどりの食料システム戦略

### 食卓プロジェクトチーム（食卓PT）

北海道農政事務所では、消費者の食と環境への関心を高め、環境に配慮した消費行動への変容を促すため、**若手職員を中心**とした「**みどりの食料システム戦略食卓プロジェクトチーム（食卓PT）**」を結成（2022年7月1日）し、「**みどりの食料システム戦略**」に関する様々な取組を展開。

※「みどりの食料システム戦略」とは？

農林水産省では、将来にわたって食料の安定供給を図るため、持続可能な食料システムの構築に向け、中長期的な観点から、調達、生産、加工・流通、消費の各段階の取組とカーボンニュートラル等の環境負荷低減の取組を推進しています。



## 有機農業に係る農作業体験の実施



## 小冊子「やさいめぐり」の作成・発行



## 各種イベントでのパネル展示等



# 人材育成・研修について

## 新規採用者向け研修

入省1年目の職員を対象に4月に開催します。  
公務員としての心構えや農林水産行政の基礎知識等を学びます。

## 農村派遣研修

入省2年目に在職する職員を農家の元に5日間派遣し、農林水産業の実情を経験する研修です。

## 職員向け研修

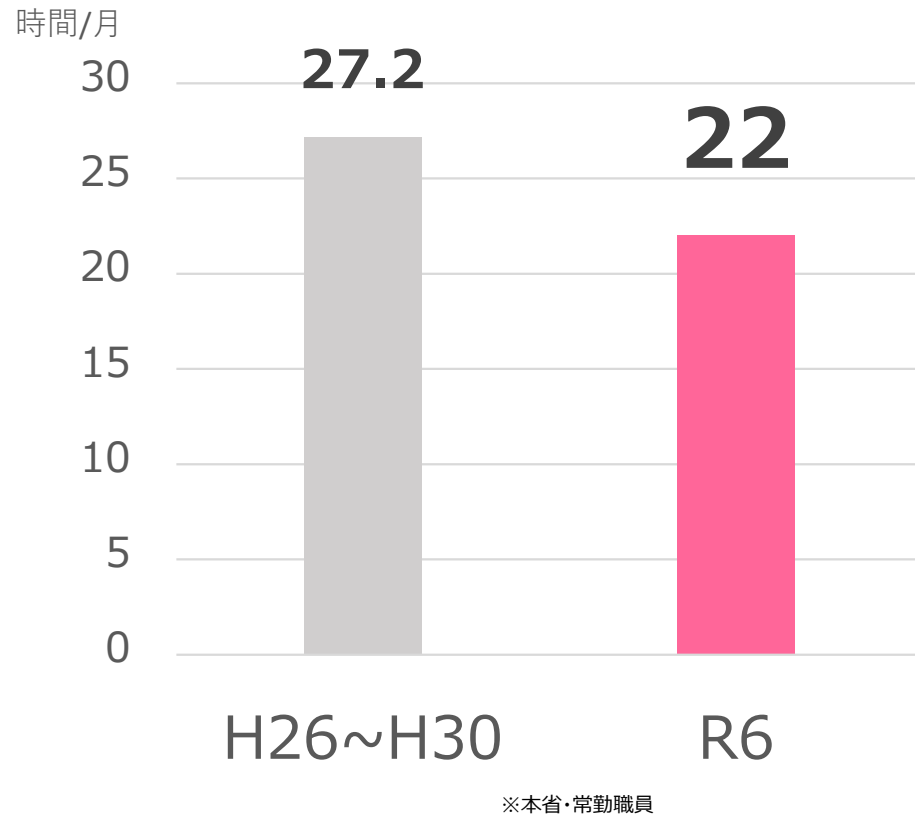
職員のスキルアップや知識習得のため、様々な研修や現地視察に参加可能です。  
対面研修のほか、オンライン研修も充実しています。

【研修例】情報セキュリティ研修、文書管理研修、ITパスポート研修、農業関連施設の視察、  
担当業務に関する研修（畜産、食品安全、統計、会計、情報技術など）



# 農林水産省の職場環境について

## ○ 超過勤務時間は減少傾向



## ○ 多様な働き方～テレワーク等～

- ・フレックスタイム制度、早出遅出出勤
- ・テレワークも実施
- ・R6年度の平均年休取得日数は13.8日（本省）

## ○ メンター制の実施

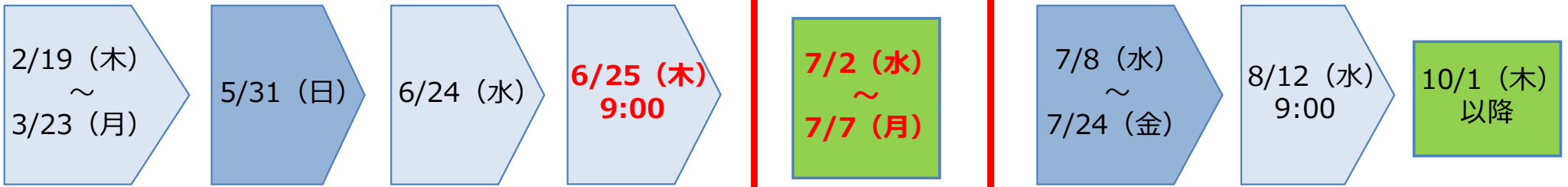
## ○ 仕事と家庭の両立

- ・育児休業取得率（R5年度） 男性…84% 女性…100.8%
- ・保育所も併設  
（農林水産省に勤めている職員の子どもが優先して入園可能）
- ・本省内に「マザーズサポートルーム」を設置  
（育児中・妊娠中の職員が搾乳や休憩に利用できるスペース）

働き方改革キャラクター



# 採用スケジュール（2026年度一般職大卒程度行政・教養）



受験申込期間

人事院第1次試験 (筆記)

第1次試験合格発表

※詳細は農政事務所HPに掲載予定

官庁訪問予約受付開始

※詳細は農政事務所HPに掲載予定

※土日祝日は実施しません

官庁訪問 (北海道農政事務所)

※官庁訪問禁止期間 (7/26 (日))

人事院第2次試験 (面接)

最終合格発表

内々定解禁

内定

## 行政・教養

### 【お問合せ先】

北海道農政事務所総務課人事グループ

Mail: [saiyo@maff.go.jp](mailto:saiyo@maff.go.jp) Tel: 011-330-8804

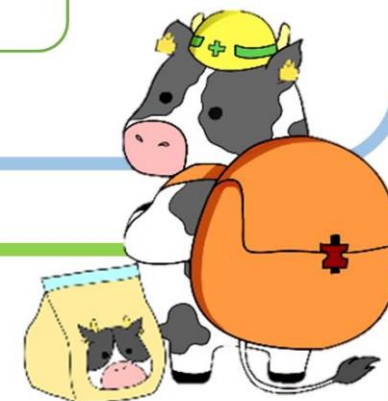


【北海道農政事務所HP】



【北海道農政事務所HP 採用・募集関係】

職員インタビュー、若手職員の日など  
北海道農政事務所の概要がわかる！  
業務説明会の情報もこちらから



## 技術系

### 【お問合せ先】

農林水産省大臣官房秘書課企画第1班

Mail: [saiyou\\_kanbou@maff.go.jp](mailto:saiyou_kanbou@maff.go.jp)

Tel: 03-6744-2001



【農林水産省採用HPトップ】